



別の顔

放課後は



after

スポーツが大好きで、部活動のバレーボールと並行してビーチバレーの練習をしています。ビーチバレーでは県中学生男女選手権大会で優勝し、全国大会に進むことができました。ビーチバレーは天候の影響も大きく、砂場で足を取

鹿屋中学校
すえひろ だいむ
末弘 大夢さん(3年生)
※取材時



男子バレーボール部キャプテンのほか応援団長、生徒会長を務めるなど積極的な性格。友達も多く、自転車とカードゲームが好き。

られスタミナを消耗するという、屋内バレーとは違う難しさがあります。しかし、身長が小さくてもフットワークやジャンプ力で戦うことができ、バレーの総合力が求められる点が面白いです。
今後2つのバレーを続けながら、ジャンプ力とパワーをつけて、何でもできるバレーボール選手になれるよう努力したいと思います。



学 校では鹿屋中学校の校則を見直すために、生徒会長として生徒たちから要望を聞き「校則検討委員会」で先生たちと調整しながら校則を一部改正することができました。



school

昔、度尾で起きた出来事にクローズアップ!



タイムトラベル ~温故写新~

12話

旧暦の寄り合い~庚申講~



▲輝北町中平房の庚申地蔵は1690年の建立。時代が下ると青面金剛が主な信仰対象となる



▲中国の書『太上除三尸九虫保生經』より、人間の体内にいとされる虫(三尸)の図。右から上戸、中戸、下戸

私たちが日常生活を送るうえで、地球が太陽の周りを1周する時間を1年として計算する太陽暦が採用されていますが、明治以前は月の満ち欠けに基づいて1か月を定める太陰暦が主流でした。これを「旧暦」といいます。旧暦では十干と十二支を組み合わせ、60を周期として1番目の「甲子」57番目の「庚申」な

ど、毎日の干支が定められています。江戸中期、庚申の日は「人間の身体には3匹の虫がいて、庚申の夜に虫たちが人間を早死にさせようと、寝ているときに人間の罪を天の神に告げる」という、中国の道教由来の教えが民衆に信じられていました。そこで家の代表たちが夕方集まり、朝まで徹夜して祈祷や会食をする「庚申講」が盛んに行われていたことが分かっています。
大隅地方では、庚申信仰の対象として「庚申塔」が18世紀ごろに次々と建立されました。そのほとんどに3匹の虫を押さえるとされる青面金剛が彫られており、上野町、南町、花岡町、申良町上小原など市内各地に青面金剛像が残存しています。
ひな祭りやお盆など、旧暦の行事は今も生活に根付いています。道端で見かける庚申塔から、庚申の長い夜に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。